

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

ひつじかいの

しょうねん

少年、ダビデ



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: Lazarus

かいさくしゃ
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

しゅつぱんしゃ
出版社: Bible for Children

www.M1914.org

©2010 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、
また きよか
又はプリントは、許可されています。



ずっとむかし、まだサウルがイスラエルの王さまだった
たときのお話です。ダビデという名の男の子がいま
した。ダビデは、7人のお兄さんを手伝ってお父さん



のヒツジやウシの世話をしていました。



かれは、いちばん末っ子ですけれど、とてもつよく、
ゆうき しょうねん にかみ あい
勇気のある少年でした。それに、いつも神さまを愛し
しん こ
こころから信じていました。その子は、ベツレヘムを

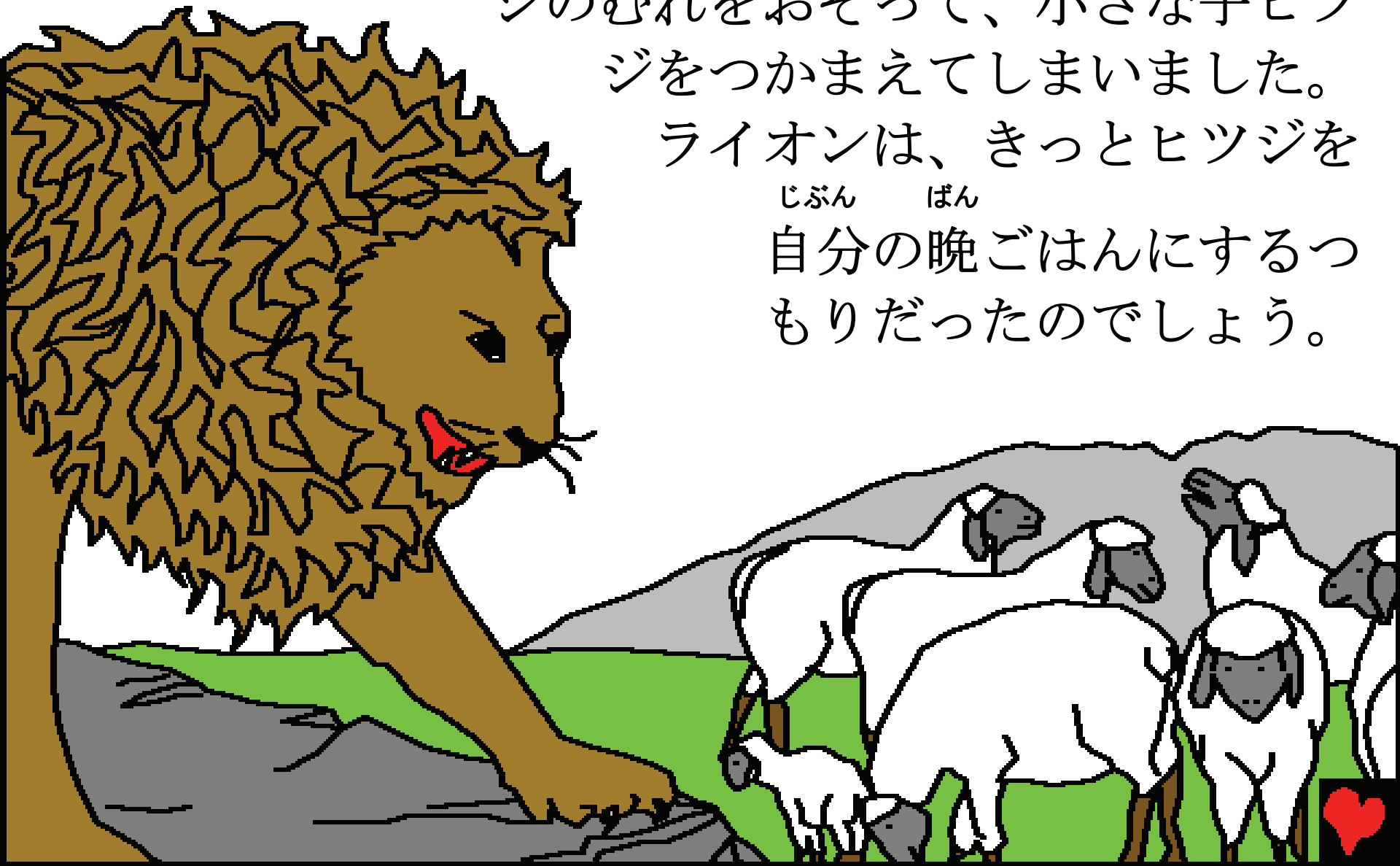


まち
いう町にすんでい

ましたよ。

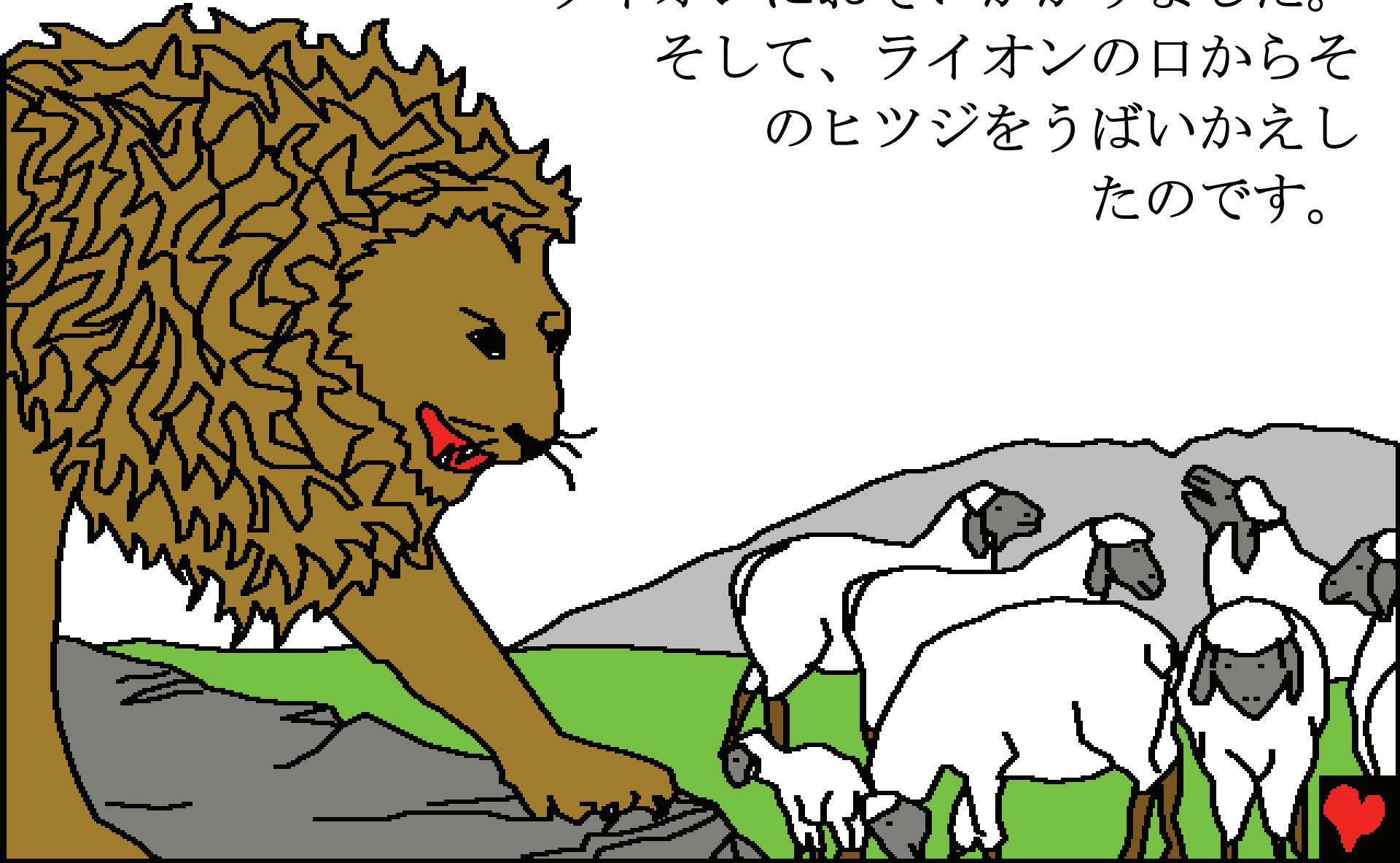


いちど、こんなことがありました。ライオンがヒツ
ジのむれをおそって、小さな子ヒツ
ジをつかまえてしまいました。
ライオンは、きっとヒツジを
自分の晩ごはんにするつ
もりだったのでしょうか。



こ
そのときダビデは、子どもっだったのですが、
ライオンにおそいかかりました。

そして、ライオンの口からそ
のヒツジをうばいかえし
たのです。



つき

次に、うなっているライオンのヒゲをつかんで殺して
しまいました。そのときダビデは、

おも

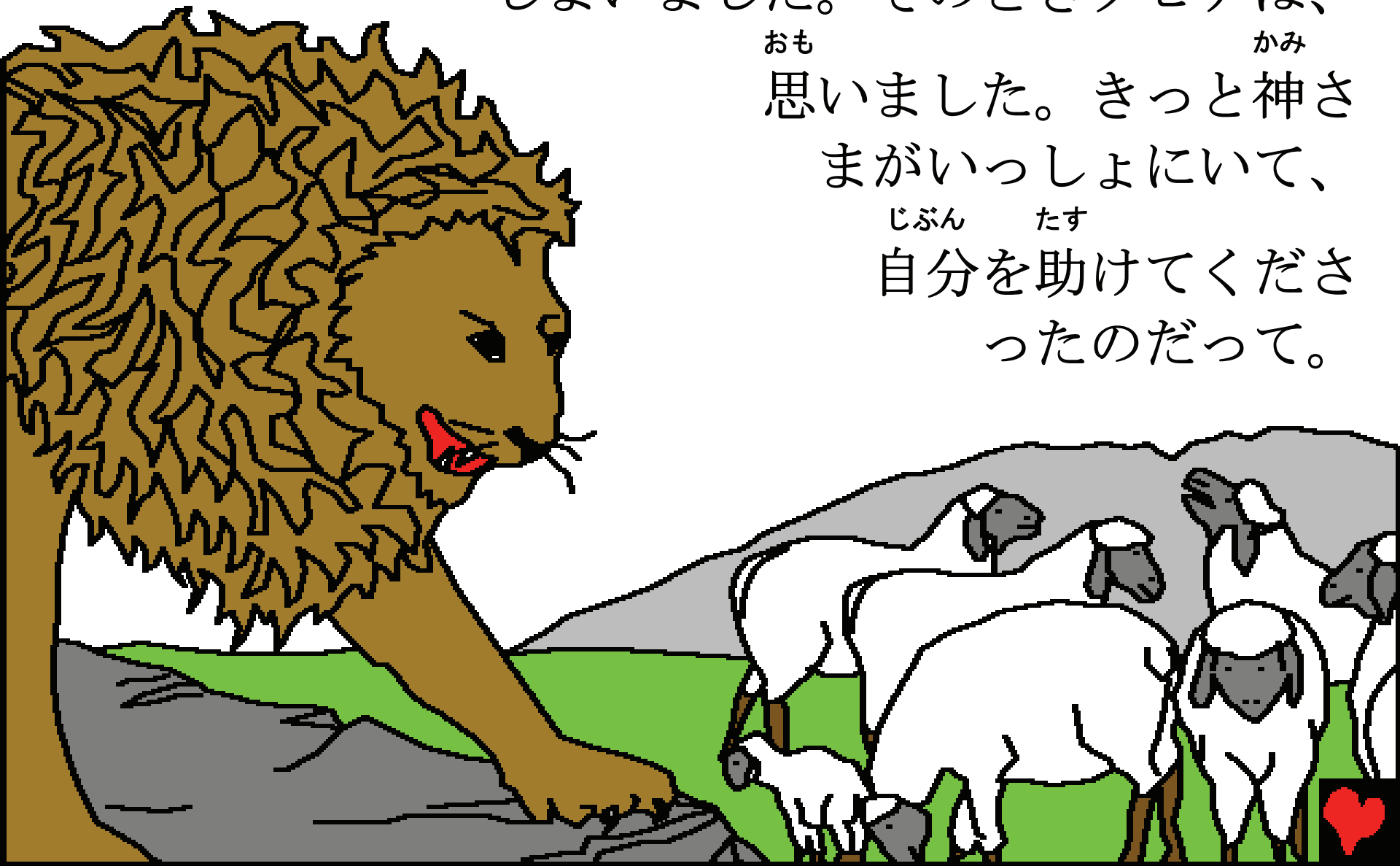
かみ

思いました。きっと神さ
まがいっしょにいて、

じぶん

たす

自分を助けてくださ
ったのだから。



かみ しゃ
そのころ、神さまのよげん者サムエルは、まだサウル
かな
のことで、悲しくてたまりません。
かみ
なぜなら、サウルは、すっかり神さ
まからはなれてしまった
のですから。



「いったい、いつまでサウルのことではなげくつもりな
かみ
のか。」神さまは、こう言^いってサム
エルをしかったです。「サムエル、
わたしはあなたをエッサイの
ところにつかわそう・・・。



それは、わたしがエッサイのむすこの1人を次の王としてかんがえているからだ。」じつはね、エッサイと

ひと とう
いう人は、ダビデのお父さんでした。

かみ い
サムエルは、神さまの言われることにしたが、...



...もうひとりの王さまをさがしに行くことにしまし
た。でも、もしサウル王がそのことを
知^しったら、たいへんなことですね。
サムエルをころすかもしれません。



サムエルをころすかもしれません。

けれども、よげん者サムエルは、
神さまにしたがいました。



まち
サムエルがエッサイのいる町について、エッサイ

じぶん
は自分の7人のむすこたちにサ

まえ ある
ムエルの前を歩かせました。

ところが、サムエルはかれらを
み い
見て言いました。「エッサイ、

しゅ
主がえらばれたのは、このむ
すこたちじゃありません。」
このとき、ダビデだけここに
いませんでした。ダビデは、
ちょうどヒツジのせわをし
ていたからです。



にい なか
そこで兄さんたちは、ダビデをへやの中につれてきま

したよ。すると、主がすぐにサ
ムエルにこたえられました。

た
「立ちなさい。そしてかれ

あぶら
に油をそそぎなさい。

ひと しゅ
まさに、この人こそ主がえ
らばれたものである。」



さて、そのころサウルのおしほは、^{しゅ} ^{れい} いったいどうなっ

ていたでしょう。じつは、主の霊がサウルからす
っかりはなれてしまい、

^{やす} かれの心には安らぎやよ
ろこびがありません。

^{つか} サウルのめし使い
^{おも} たちは、こう思い
ました。



もし、サウルがうつくしい音楽を聞いたなら、

おんがく き
こころ

かれの心はおちつき、やさしくなるかもしれないと。

つか

めし使いの1人が、
ハープをととてもじょうず
にひくわかい
男の人を知って
いました。



ひと
みなさん、その人はだれかわかりますか。
そうなのです。

ひと
その人はダビデですよ。



おんがく

ダビデのそのうつくしい音楽は、

こころ あんしん

サウルの心を安心させ、ものごと

ただ かんが

を正しく考えられるようにして

くれるようです。サウルは、

とう

ダビデのお父さんエッサイ

にたのみましたよ。「ぜひ、

つか

ダビデをわたしに仕えさせ、

しろ す

このお城に住まわ

せてくれ。」



それから、サウルが、

いろいろなことを心配して元気がなかつ
たり、おそれたりするときは、いつで
もダビデがハーブをひきました。

それを聞くと、サウルの心
はおちつくのでした。



とう

ダビデがお父さんのうちへかえってからのことです。

じん

おお

サウルとペリシテ人とのあいだに大きなたたか

にい

いがはじまりました。ダビデの兄さんたちは、

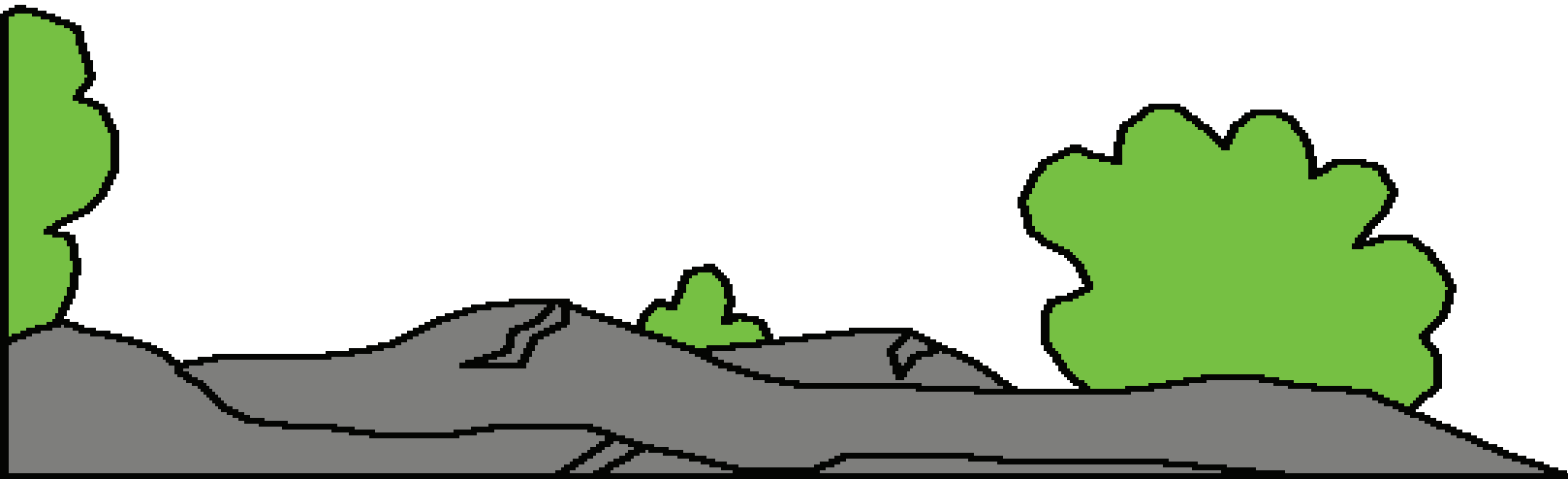
ぐん

はい

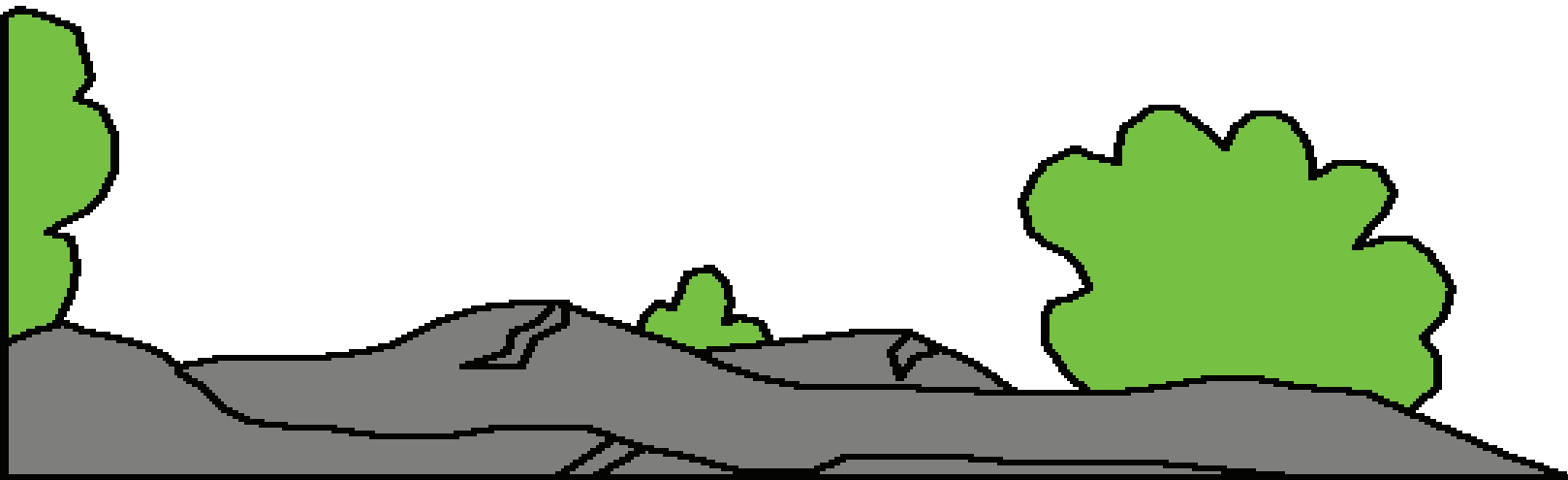
サウルの軍たいに入り、

じん

ペリシテ人とたたかいましたよ。



エッサイは先とうに立ってたたか
っているむすこたちが心配しんぱいです。「ダビデ、
兄さんたちに食べものをもっていって、
どうしているか見てきておくれ。」エッサイは、
こう言ってダビデを兄さんのところに行かせました。



あれっ！ものすごくでかいペリシテ人がいますね。
かれの名まえは、^なゴリアテ。^{へいし}イスラエルの兵士



たちをとて
もこわがらせてい
ました。



「やい、^{へいし}イスラエルの兵士ども！おまえたちの中^{なか}から
^{ひとり}1人えらんでおれのところへつれてこい！」

ゴリアテは、^{おお}大きな^{こえ}声でさけびました。

「もし、そいつがお
^{たたか}れと戦って、

おれをころしたなら、
われわれペリシテ
^{じん}人はおまえたちイ
スラエルに
^{つか}仕えよう。



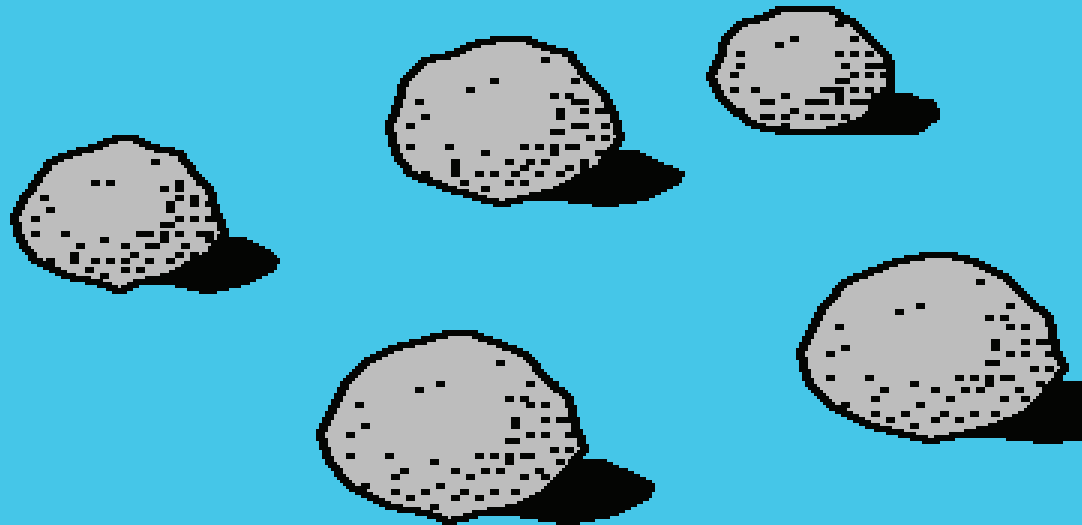
だが、もしおれが勝^かったなら、イスラエルは、ペリシ
テにつかえるのだ。わかったな！」ほんとうに大きく^{おお}
て強^{つよ}そうです。イスラエルの男^{おとこ}たちは、
「ああ、おそろ
しい！」



い
と言って、みんな
いそ
な急いでにげま
したよ。



ゴリアテのことを知^しったダビデは、サウルに言^いいまし
た。「王^{おう}さま、イスラエルは、ゴリアテなどこわがる
ことはないのです。あなたの召^めしつかいであるわたし
が、ゴリアテのところへ行^いって、やっつけてまいりま
しょう。」そこで、サウルは、自分^{じぶん}が戦^{たたか}うときのよ
ろいや、かぶ^{かたな}と、そして刀をダビデにわたして、
それら^{つか}を使うよう
に言^いいました。



でもね、ダビデはゴリアテとたたかうのにサウル

かたな つか

のかぶとや、よろいや刀を使わなかったのですよ。

なに つか

おがわ

じゃ、何を使ったのでしょうか。小川でひろったつる

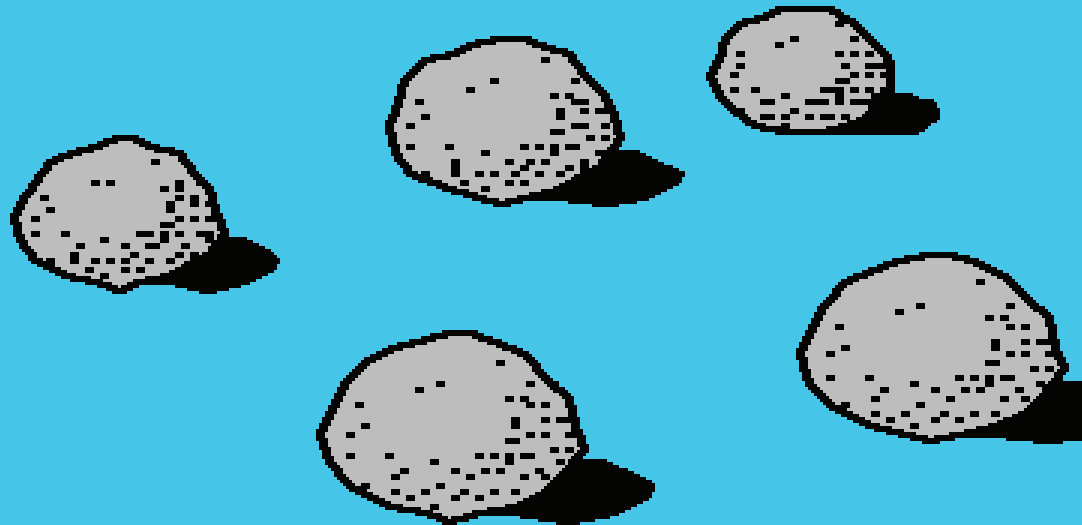
いっ いし いし き

つるした5つの石と、石なげ器です。

それらをもってゴリアテの

い

ところに行ったのです。



「ハッ、ハッ、ハッ、なんて小っぽけなやつだ。それに、よろいもかぶともつけてないじゃないか。」

ちっ

おおごえ

アテは大声でわらいました。

そして「おまえのからだをバラバラにして、

そら

とり

空をとんでいる鳥や、

のはら

野原をウロウロしているけものたちのえさに

してやろう。さあ、

かかってこい！」



と言ってどなりちらしました。そこでダビデは、「わ
たしは、ただ主の名により、あなたのところにやって

きたのです。」と答^{こた}え、

こ^いう言いました。

「今日、主はあなたを

わ^{まか}たしに任せられ、

勝^かたせてくださるで
しょう……。このた
たかいは、主のものな
のです。」



さあ、ダビデはゴリアテにむかってまっす
すす
ぐに進んでいきましたよ。

ダビデは、走りながら、
はし
いし き
石なげ器から1つの
いし
石を、ゴリアテに
な
むかって投げつ
けました。



ちゅう

それは、ちょうどゴリアテのひたいにめい中した
のです。ドシン！ものすごい

おと

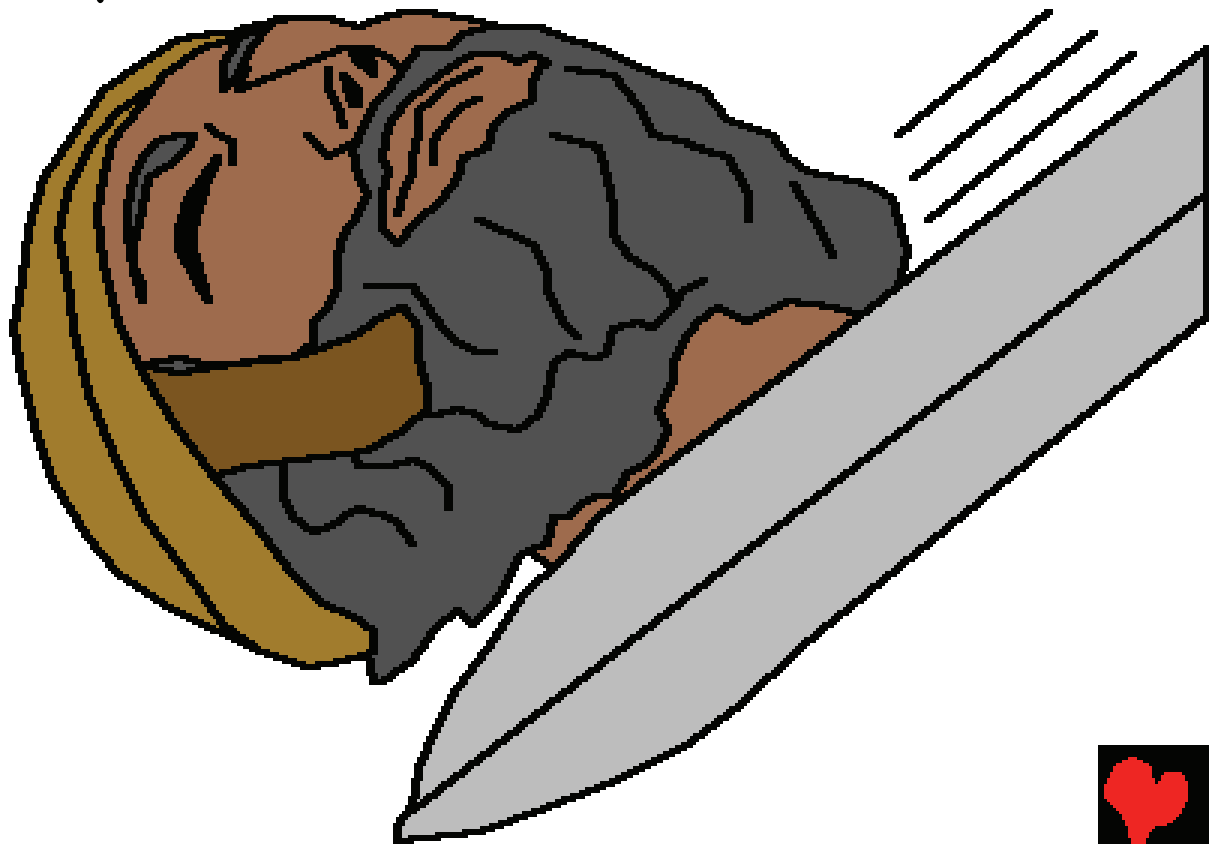
音です。あっ、ゴリ

じ

アテは地めん^じにひっ
くりかえっていますよ。



ダビデは、すぐにゴリアテの大きい大きい^{おお おお かな}刀^{おお}をとり
あげ、かれのあたまを切りおとしました。大きなゴリ
アテが死んでしまったのを見たペリシテ人、みんな
びっくりです。「わあ、
たすけてくれー。」
^いと言いながら、
いちもくさんに
にげていきました。



おう

ひと

そのとき、サウル王は、ゴリアテをやっつけた人が、

まえ

じぶん

前にハープをひいて自分をなぐさめてくれたダビデとは、

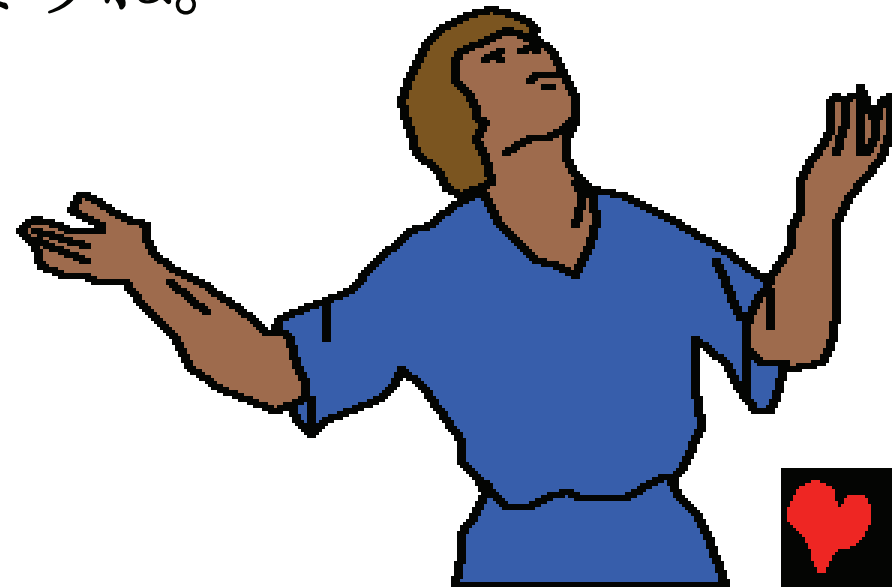
き

まったく気づきませんでした。

あとでそのことがわかり、

きっとおどろいたこと

でしょうね。



それから、サウルはダビデを自分の軍たいの長として、はたらいてもらうことにしました。
ところが、それからサウルとダビデの仲がだんだん悪くなっていくなのです。



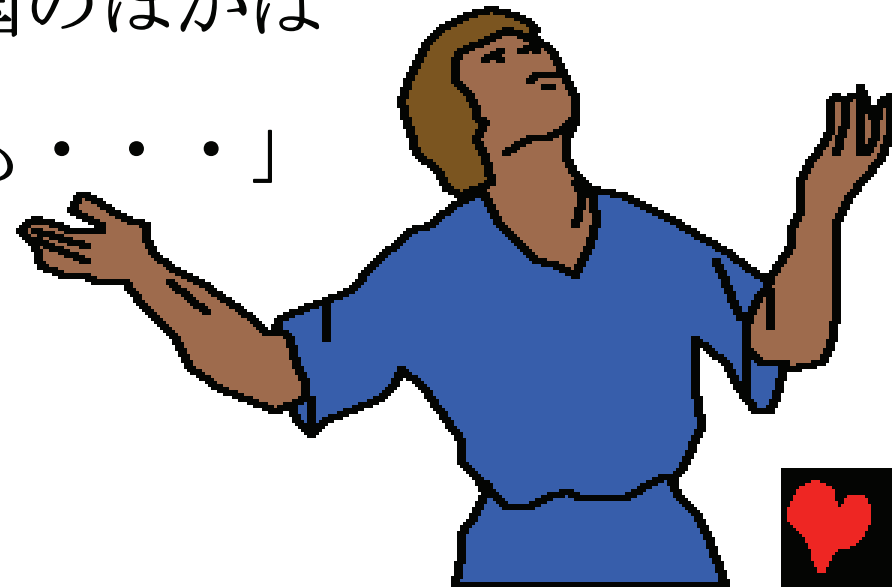
たたか か ひとびと
ダビデが戦いで勝つたびに、人々はダビデをほめた
たたえるようになったからです。

サウルは、ダビデにしつとし、
い
こう言ってにくしみはじめたの

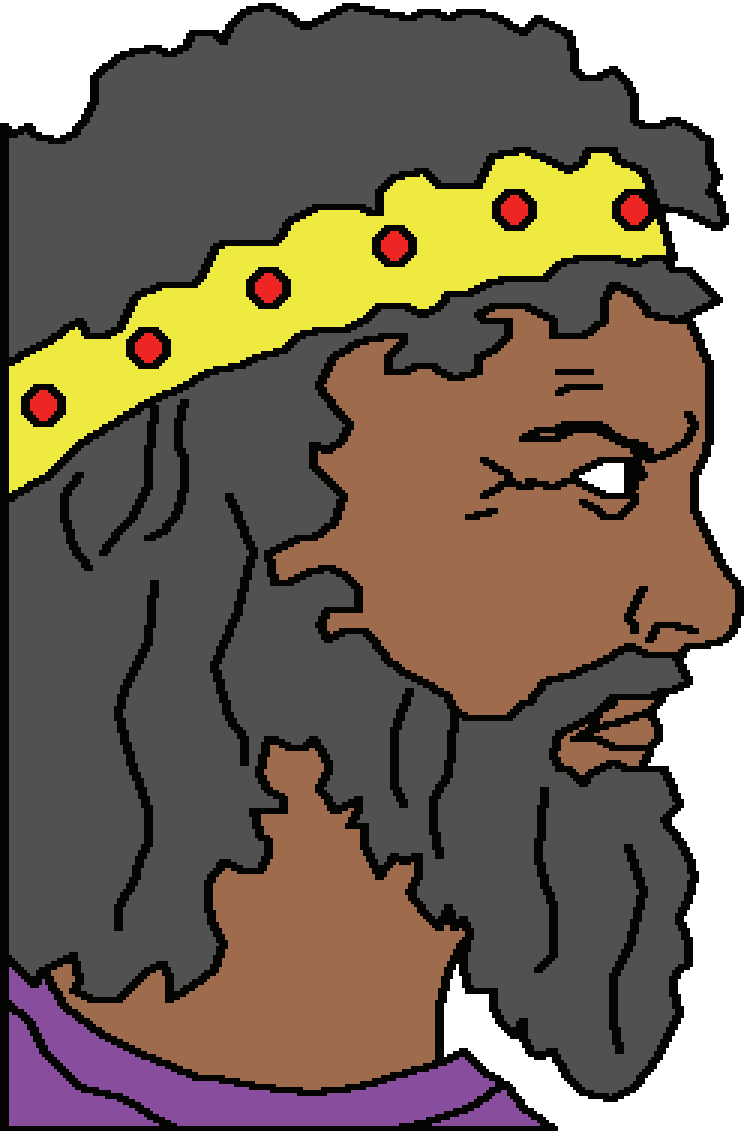
なん
です。「いまやダビデは何でも
もっているじゃないか。わたし

おうこく
の王国のほかは

なん
何でも・・・」



サウルは、ダビデを信じないで、
いつもうたがいとにくしみ
の心をもって見つめるよ
うになりました。



こころ

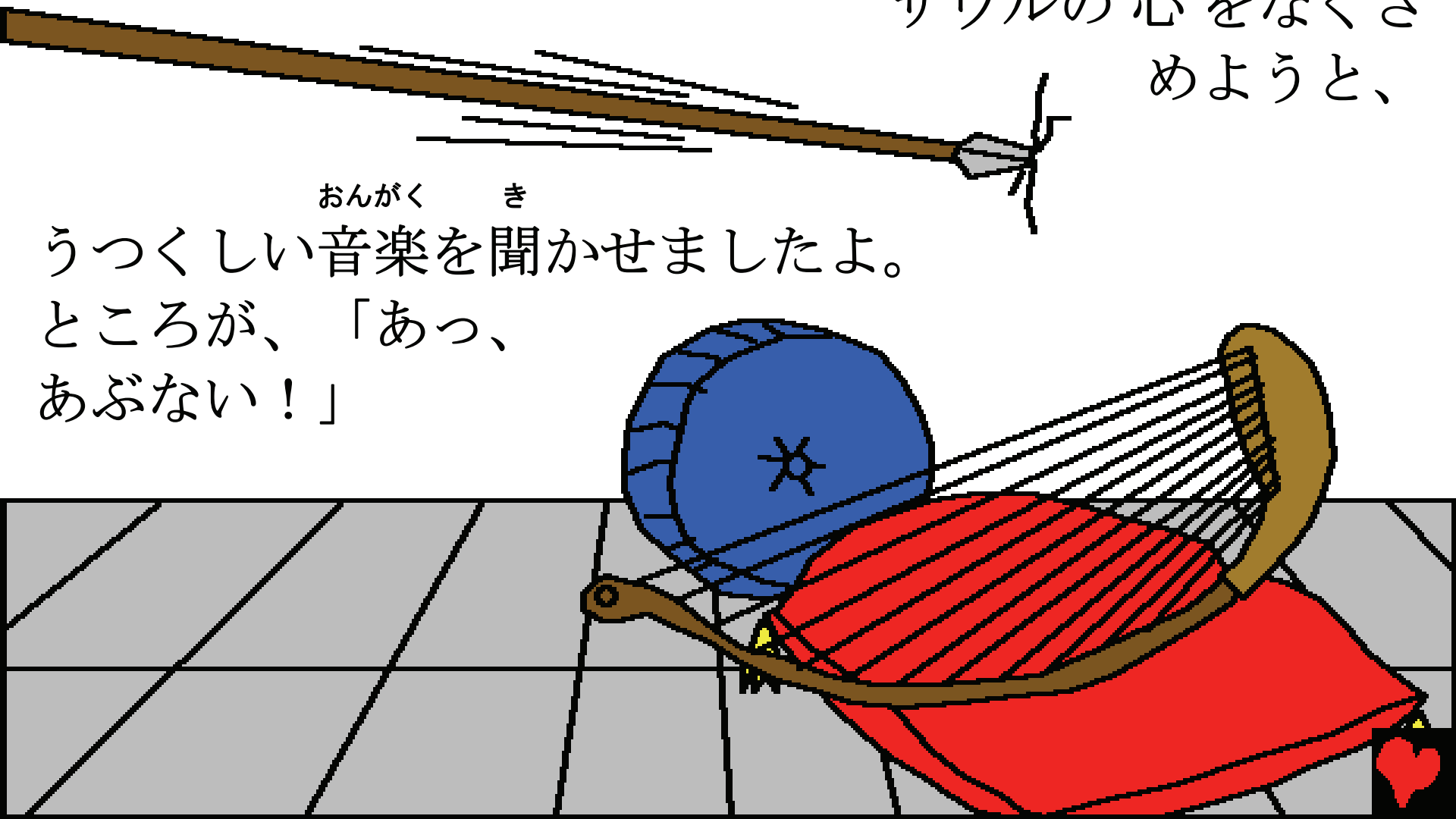
またしても、サウルの心にはやすらぎがなくなっ
てしまいました。そこでダビデは、

こころ

サウルの心をなぐさ
めようと、

おんがく き

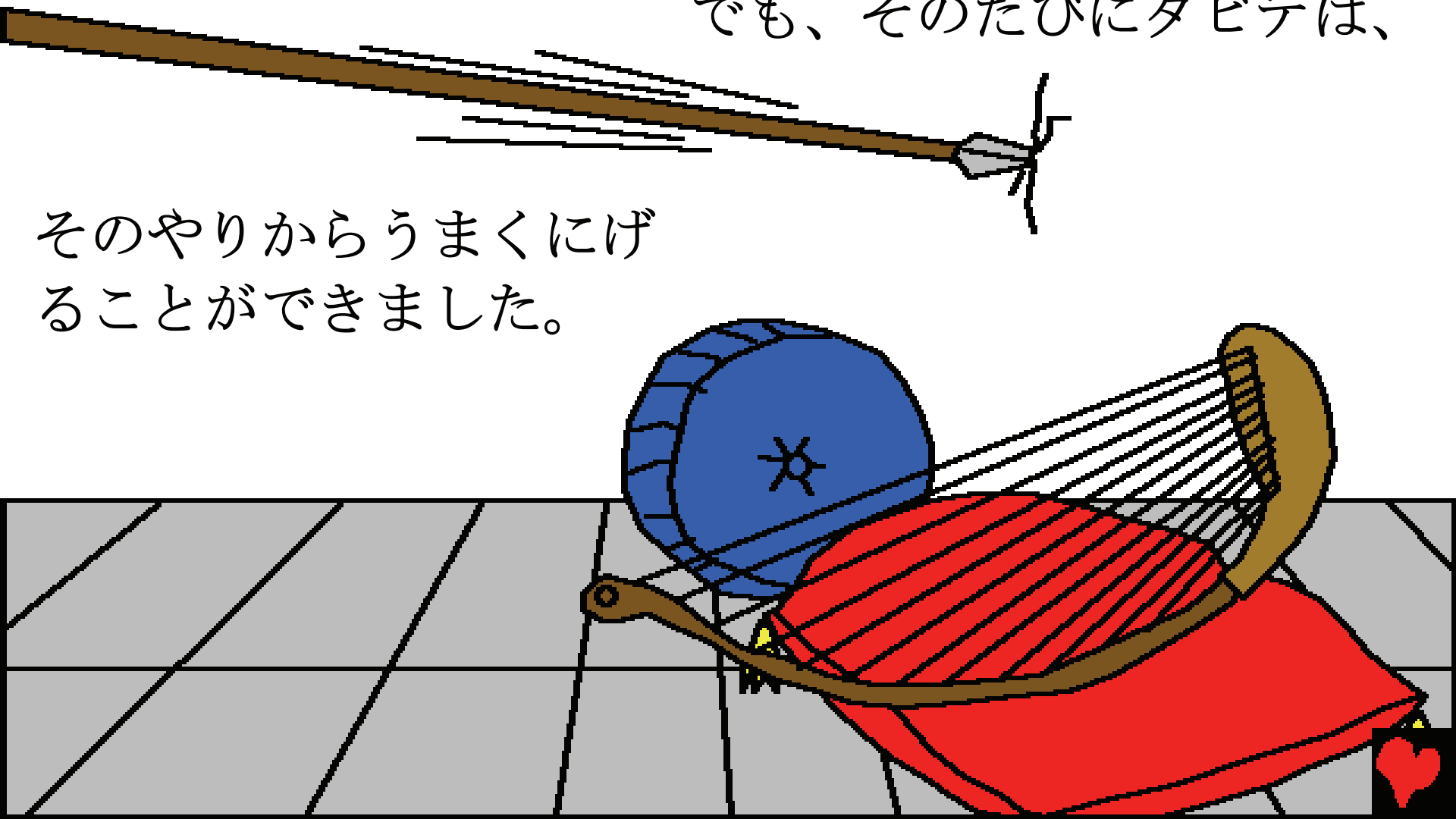
うつくしい音楽を聞かせましたよ。
ところが、「あっ、
あぶない！」



サウルはそのきれいな音 ^{おと} を聞きながら、 ^き 3回も自分 ^{さんかい} の ^{じぶん}

のやりをダビデに投げつけ、 ^な 殺そうとしたのです。 ^{ころ}
でも、そのたびにダビデは、

そのやりからうまくにげる
ことができました。

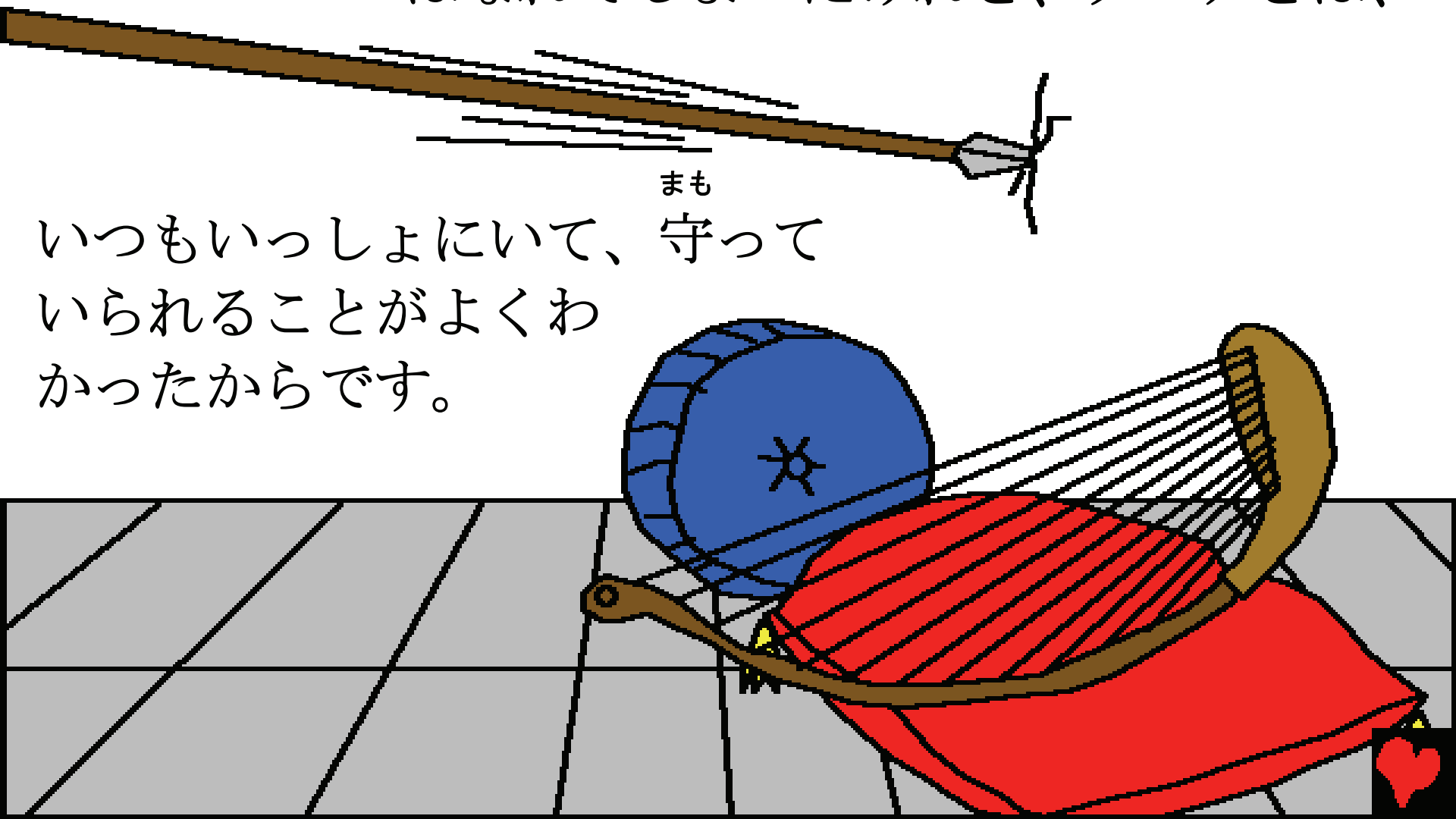


サウルは、ますますダビデがおそろしくなりま
したよ。どうしてって、主はサウルからは、
はなれてしまったけれど、ダビデとは、

しゅ

まも

いつもいっしょにいて、守って
いられることがよくわ
かったからです。



ところが、サウルのむすこヨナタンは、^{だいす}ダビデが
^{にい}大好きでまるでほんとうの兄さんのように思
^{おも}っていました。あるときヨナタンは、
ダビデにこう言いました。「^い気をつけて！
^き
^{とう}ぼくの父さんは、^{ころ}あなたを殺そう
とさがしまわっています。」



いそ

そこで、ダビデは急いでにげることにしました。

じつは、ダビデのおくさんは、かれのベッド

なか にんぎょう い

の中に人形を入れておいたのです。そして、

よなか

お

ま夜中にダビデをまどからつり下

ろしにがしてくれました。さて、

つか

サウルの使いがきて、ダビデをつかま

ころ

えて殺そうとした

のですが・・・。

ダビデはもうベッ

ドにいませんで

したよ。



ダビデはサウルからののがれて、とおいとおい^{ところ い}所に行か
なくてはなりませんでした。ダビデがにげる前^{まえ}、かれと
ヨナタンは、おたがい^{なん}に何どもしっかりとやくそ
くしました。



ふたり
そのやくそくっていうのはね、「これからも2人は、
たす あ
いつも助け合っていこう！」というものでした。かな
ふたり
しいことに、この2人はそれからすぐに「さよ
うなら」...



い
...を言わなければなりませんでした。ダビデは、これ
い しゅっぱつ
から生きていくところをさがしに出発したからです。

へいし み
もうサウルの兵士に見つからないところをさ
がしにね。



しょうねん
ひつじかいの少年、ダビデ

かみ み せいしょ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

きじょう しょう しょう
サムエル記上 16 章 - 20 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに
かみ かみ
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを
おも
しってほしいと、思っています。

かみ わたし
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい
かみ つみ つみ
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の
し かみ あい
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい
ひとり こ よ おく
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って
つみ じゅうじかじょう な
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ
てんごく
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい
しん
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください
いま ところ き なか
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に
す い
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生
きるができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし
て生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

